今週の為替相場見通し（2017年10月10日）

総括表			先週の値動き		今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	（円）		112.32 ～ 113.44	112.61	111.50 ～ 114.00
ユーロ	（ドル）		1.1669 ～ 1.1815	1.1730	1.1650 ～ 1.1850
（1ユーロ=）	（円）		131.84 ～ 133.06	132.19	131.00 ～ 133.00
英ポンド	（ドル）		1.3027 ～ 1.3402	1.3060	1.2850 ～ 1.3200
（1英ポンド=）	（円）	*	147.05 ～ 150.98	147.20	144.00 ～ 149.00
豪ドル	（ドル）		0.7733 ～ 0.7875	0.7770	0.7600 ～ 0.7900
（1豪ドル=）	（円）	*	87.40 ～ 88.74	87.50	86.00 ～ 89.00

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

為替営業第二チーム　高田 裕

（1）今週の予想レンジ：　111.50 ～ 114.00 円

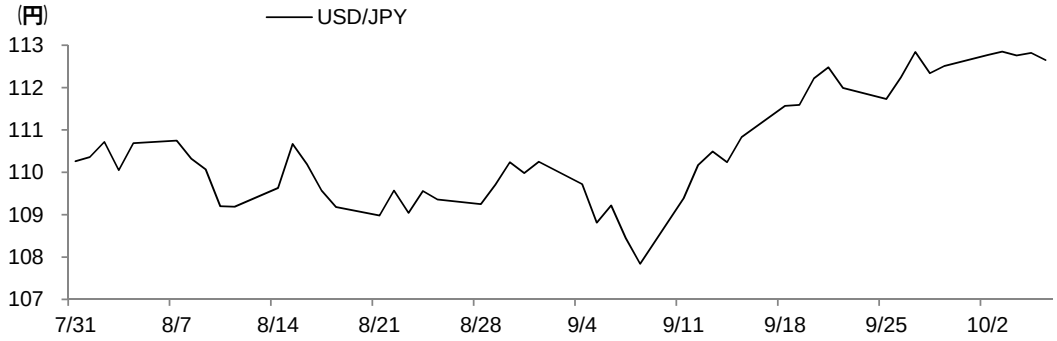
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場はレンジ推移。週初2日に112円台半ばでオープンしたドル/円は、本邦実需勢の買いフローから112 円台後半まで上昇すると、その後カタルーニャ州独立問題を巡るスペイン政情不安を背景としたユーロの下落からドル買い優勢となり113円丁度を上抜けた。しかしその後、米ラスベガスでの銃乱射事件などからリスク回避の動きが強まると112 円台後半まで反落した。翌3日は高寄りした日経平均株価が上げ幅を拡大するとドル/円は113円台前半まで上昇したが、次期FRB 議長を巡る観測などから米金利が低下すると112 円台後半まで下落した。週央4日は次期FRB議長についてタカ派なウォーシュ元FRB 理事ではなく、ハト派なパウエルFRB 理事が有力と報道されたことから米金利の下落と共にドル売りが加速し、週安値となる112.32 円まで値を下げた。しかし、米9月ISM 非製造業景況指数が予想を上回ると112 円台後半まで反発した。翌5日はメイ英首相に対する求心力低下を受けてポンド/円が急落するとドル/円は112 円台前半まで連れ安となった。しかしその後、米下院で2018 会計年度予算案が可決されたことからドル買いが強まり112 円台後半まで回復した。週末6日は米9月雇用統計で平均時給の伸び率が好感され米金利が急進するとドル/円は週高値の113.44円まで上伸。しかしその後、北朝鮮による弾道ミサイル発射計画の報道から円が買い戻され、結局112円台後半で越週した。

今週のドル/円は底堅い展開を予想する。先週末に発表された米9月雇用統計では非農業部門雇用者数が▲33千人と2010年9月以来、7年ぶりの減少となった。しかし大型ハリケーンの影響が意識され市場の反応は限定的。むしろ平均時給が前月の伸びを上回ったことが材料視され利上げ期待からドル買い優勢の展開となった。今週は、米国で予定されるイベントとして11日（水）にFOMC議事要旨（9月19-20日分）、13日（金）に9月消費者物価指数(CPI)、9月小売売上高の発表がある。足元、良好な経済指標から米株が軒並み最高値を更新する状況下、年内の利上げ観測が強まっている。今週発表のCPIが強い結果となれば米金利上昇と共にドル/円はサポートされるであろう。加えて先週は2018 会計年度予算案が可決されており、米税制改革への期待などからもドル/円は底堅い展開が予想されよう。ただし、北朝鮮情勢については緊張状態が継続しており、地政学リスクが強く意識される局面ではドル/円が急落する展開も否めなく留意する必要があろう。

（3）先週までの相場の推移

先週（10/2～10/6）の値動き：　安値 112.32 円　高値 113.44 円　終値 112.61 円



（資料）ブルームバーグ

2．ユーロ

為替営業第二チーム　西谷 鷹

⑴ 今週の予想レンジ：　1.1650 ～ 1.1850　131.00 ～ 133.00 **円**

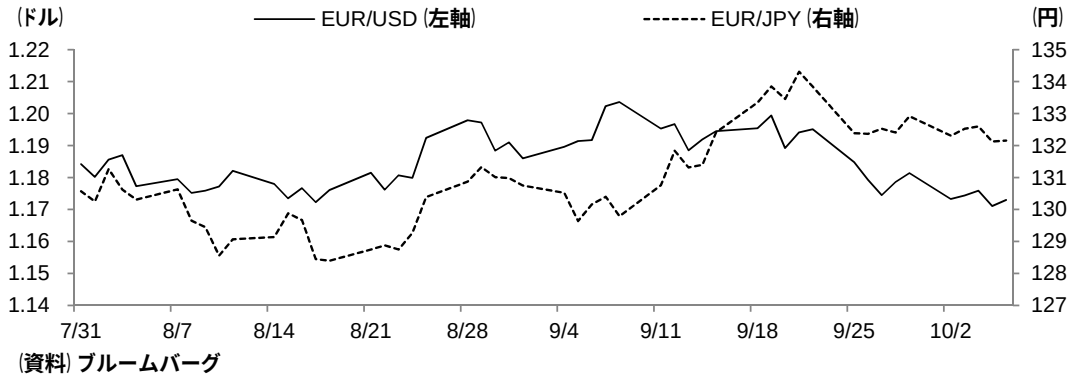
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は軟調な展開。週初2日に1.18台前半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる1.1815をつけた。しかし、スペインのカタルーニャ自治州が週末に決行した独立を問う住民投票では、約90%が独立を支持したことが明らかになると政局不安からユーロ売りが強まり1.17台前半まで下落した。3日もユーロ売りは続き一時1.16台をつけたが、このレベルでは買い意欲もみられ1.17台半ばまで買い戻された。4日にはドル売りが強まり1.17台後半まで戻したが、米金利上昇や米9月ISM非製造業景況指数の予想を大きく上回る結果を受けドル買いが優勢となり1.17台半ばまで反落。5日に公表されたECB政策理事会（9月7日開催）の議事要旨でメンバーがユーロ高に対する強い懸念を示していたことが明らかになると、米金利上昇も相俟ってユーロ/ドルは一時1.17台を割り込んだ。6日は米9月雇用統計が発表され、非農業部門雇用者数変化こそ事前予想（+8.0万人）を下回る▲3.3万人となったものの、平均時給や失業率が予想比強めの結果となったことを好感し、米金利上昇・ドル買いの流れの中でユーロ/ドルは一時週安値となる1.1669まで下落。しかし、北朝鮮関連のヘッドラインを受けて急速に米金利低下の動きを見せると、1.1740近辺まで急反発する展開となった。ユーロ/ドルは1.1730で越週した。

今週のユーロ相場はレンジ相場を予想する。先週発表された米9月雇用統計を受けて一時的に米金利上昇・ドル高で反応する形となったものの、「ハリケーンの影響あり」との注意書き付きの内容であり、今後材料視されるとは考えにくい。また、同指標を受けて年内利上げ織り込みが一段と進む格好となったが、足許FRBの利上げ織り込みが市場のドライバーとなる段階ではなく、次の材料待ちの状況。そういった意味で次期FRB議長人事には市場の関心が集まる。トランプ米大統領は「2-3週間以内に発表する」と発言しており、指名された後任次第では相場に大きく影響を与える可能性がある。逆に言えば、それまで様子見ムードが広がり、動きにくい相場展開が予想される。一方、ユーロ特有の材料もなかなか見えづらい状況。先週発表されたECB議事要旨でユーロ高に対する懸念が示されたものの、前回ECB政策理事会後の会見においてドラギECB総裁は同様の発言をしており、特段サプライズ感はない。1.20台での上値の重さを確認した後、すでに1.16台まで調整が進んでおり、「大方の決定」がなされる26日（木）のECB政策理事会を待ちたいとの投資家心理は理解できる。ユーロ安の材料としてはスペイン・カタルーニャ自治州の独立問題や、15日（日）に実施されるオーストリア総選挙が挙げられる。オーストリア総選挙は極右ポピュリズム政党・自由党が議席を伸ばすリスクが一部で報じられており、ドイツ総選挙同様に「ポピュリズムの躍進」がイメージ付く結果となれば、マーケットにネガティブとなる可能性はあるだろう。但し、ユーロ相場は「ECBの金融政策転換」という大きな軸の中にあると考えており、次回ECB待ちの相場展開を基本線に据え、引き続き1.1700-1.1800を中心としたレンジ相場を想定して臨みたい。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/2～10/6）の値動き：　（対ドル）安値 1.1669　高値 1.1815　終値 1.1730
（対円）安値 131.84　高値 133.06　終値 132.19



（資料）ブルームバーグ

3．英ポンド

欧州資金部　本多 秀俊

⑴ 今週の予想レンジ：　1.2850 ～ 1.3200　144.00 ～ 149.00 円

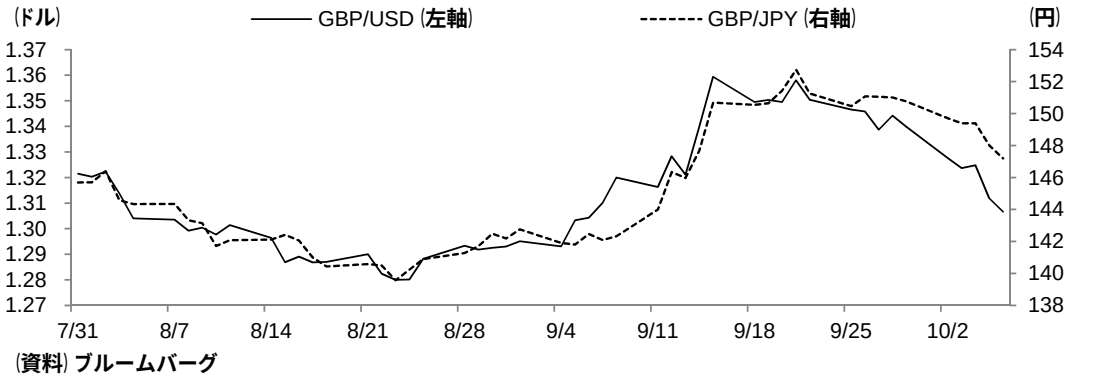
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、全面安。週明け2日のポンド安は、同日発表された英9月製造業PMIの下振れをきっかけとしたように見受けられた。同指数は8月の改定値56.7、市場予想56.2を下振れ、55.9と発表された。翌3日発表された同建設業指数は前月の51.1、市場予想の51.1を下振れただけでなく、48.1と景気拡大/後退の分水嶺となる50も1年ぶりに割り込み、特に対ユーロ、対円などでポンドの続落を招いた。4日発表された同サービス業指数は市場予想を若干上振れたものの、ポンドが好感する様子はほとんど読み取れなかった。この間、ポンドの下落を決定的にしたのは、英政局の混迷。3日、欧州議会が557対92の大差で、「離脱協定交渉の進展が十分でない」として、将来協定（移行措置協定）の開始を見送ったところまでは予定通りとも言えたが、翌4日、保守党大会でのメイ首相の演説（後述）が、同首相の求心力低下を象徴するとしてポンド売り材料視されることになった。翌5日以降、首相辞任が観測され、ポンド安は加速。更に6日には保守党のシャップス元国際開発閣外相が、「首相の辞任を求める」「保守党議員の30名ほどから同意を得ている」などと述べ、本格的な党内の軋轢が表面化した。週引け前には、発表された米9月雇用統計の失業率低下や平均時給上振れを受け、ドルが全面高に展開。ほどなく、対ユーロ、対円などでドルは反落したが、対ポンドでドルの高止まりが続いたのも（結果として対ユーロ、対円でポンドは一段と下落）、ポンドの地合の弱さを物語る値動きと言えただろう。

今週の英ポンド相場は、続落を予想。4日のメイ首相演説の不手際を全てメイ首相自身の責任とするのは無理があるものの、咳が止まらず、声が出なくなってしまったのは闖入者の乱入以降のことであり、その対応のぎこちなさと併せ、精神的な弱さを露呈したと見られても仕方ないのではないか。また、演説の内容そのものも新味に欠け、凡庸と言えた。EU離脱交渉の真っただ中の保守党党首（首相）交代は間違いなく交渉の遅延を意味するが、さりとてメイ首相がこのまま離脱交渉の舵取りを続け、無事難局を乗り切る可能性も高いとは言えない。更に大きな問題は、保守党内に有力な後継者がいないこと。万が一、デイビス離脱担当相が後継首相になってしまった場合には、党内の調整はとても覚束ないものと見込む（現時点でも彼が何かを調整できているとはとても思えない）。唯一、党をまとめる求心力を持つとみられるのはジョンソン外相だろうが、残念ながら彼の放言癖は外相就任以降もEU側から度々顰蹙を買ってきており、離脱交渉の表看板という意味では不安が大きい。可能性は極めて低いが、再度解散総選挙の目も全くないとは言えず、その場合、労働党の勝利、コービン首相誕生というシナリオも描けなくはないが、口先では単一市場への残留を主張しながら、公共事業の再国営化などを目指す同党首はがちがちの「隠れ離脱派」と言え離脱交渉が大きく脱線するのは避けられないと見込む。つまり、足元英政治の混乱は全く出口が見えない状況と言え、こうした状況が続く限り、離脱交渉の進展やポンドの復調を見込むのは極めて難しいと考える。経済指標では、今週、10日（火）に英8月鉱工業/製造業生産、英8月貿易収支の発表が予定されるが、市場の関心が高いとは言えない。引き続き、英政局がポンド市場の関心を集めよう。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/2～10/6）の値動き：　（対ドル）安値 1.3027　高値 1.3402　終値 1.3060
（対円）安値 147.05　高値 150.98　終値 147.20



（資料）ブルームバーグ

4．豪ドル

為替営業第二チーム　森谷　友一

⑴ 今週の予想レンジ：　　0.7600　～ 0.7900　　86.00　～ 89.00　**円**

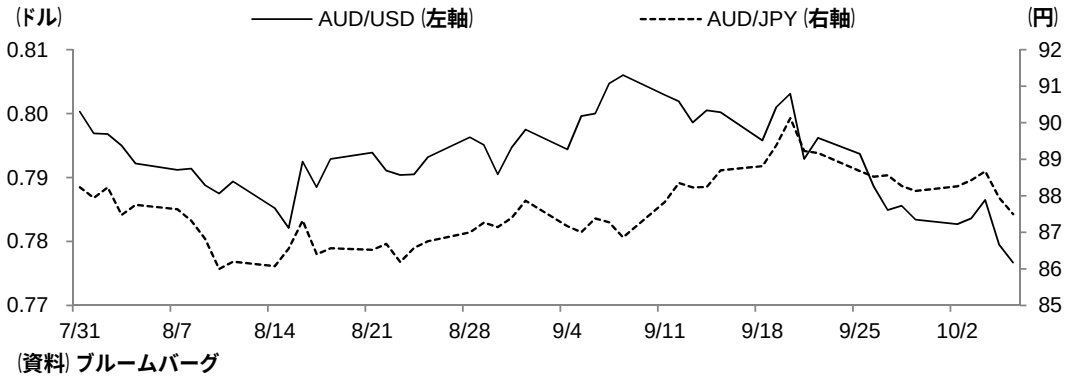
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は下落する展開。週初2日に対ドルで0.78台前半、対円では88円台前半でオープン。シドニー休日となる中、0.78台前半を中心とした方向感に乏しい推移となった。3日の豪準備銀行(RBA)理事会では市場予想通り政策金利が据え置かれ、声明文も概ね前回分を踏襲する内容となった。発表直後は対ドルで0.77台後半まで下落するも、豪ドル売りの流れは続かず直ぐに0.78台を回復した。4日は次期FRB 議長についてタカ派なウォーシュ元FRB 理事ではなく、ハト派なパウエルFRB 理事が有力と報道されたことから全般的なドル売りとなり対ドルで一時週高値となる0.7875まで上昇した。対円でも底堅い推移となり88円台後半まで上昇した。5日は豪8月小売売上高が市場予想を大幅に下回る結果となると対ドルで0.78台前半まで急落。その後もじり安推移が続き0.77台後半まで値を下げた。対円では一時週高値となる88.73円まで上昇したが、指標発表後に急落し87円台後半まで売られる展開となった。6日はハーパーRBA理事の「消費が全般に勢いを失えば金利政策を変更することもありうる」との発言が伝わると対ドルで0.77台半ばまで下落。対円では一時週安値となる87.40円まで下落した。その後、米9月雇用統計の結果後にドル買いが強まると対ドルで一時週安値となる0.7733まで値を下げた。その後は小幅に水準を戻し対ドルで0.77台後半、対円では87円台半ばで越週した。

今週の豪ドル相場は上値の重い推移を予想する。先週は弱い経済指標に加えて、ハーパーRBA理事のハト派発言が材料視されて豪ドル売りが進行する展開となった。これらを受けてRBAに対する利下げ期待が大きく高まっている状況ではないものの、金融引き締めに向かっている他の先進国中銀との金融政策格差が改めて意識されやすくなったとは言えるだろう。先週開催されたRBA理事会の声明文では、前回同様に豪ドル高が豪州経済にもたらし得る悪影響についての言及があったことも併せて考えると、当面は積極的な豪ドル買いは控えられやすいだろう。豪州外の材料に目を向けると、米国で先週金曜日に発表された米9月雇用統計は、非農業部門雇用者数変化が予想外のマイナスとなったものの、平均賃金の上昇が好感されドル買いをもたらす結果となった。税制改革案進展に対する期待感もあり、今週はドル買い優勢の展開が予想され、対ドルでの豪ドルの上値を押さえる要因となり得るだろう。引き続き北朝鮮関連のヘッドラインを受けて慌ただしく上下する可能性には警戒しておきたいが、上述の通り金融政策の格差を背景に上値の重い推移をメインシナリオとして予想する。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（10/2～10/6）の値動き：　（対ドル）安値 0.7733　高値 0.7875　終値 0.7770
（対円）安値 87.40　高値 88.74　終値 87.50



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。